

## 12分に思いを込めて！

12 min. with all my heart!

## —平成25年度卒業課題審査会—

- The Final Defence of Diploma Project -

2月17日（月）・18日（火）に、都市デザイン研・空間計画研の学部4年生が卒業課題の審査会に臨みました。12分の発表と質疑を終えた7名に卒業課題を振り返ってもらいました。

text\_koshimura

### 死史を紡ぐみち



B4 柄澤 薫冬

東京＝大都市では、昔に比べて死が軽んじられ死を悼む場所がない気がします。その問題を踏まえ、死が多く刻まれてきた両国に死を紡ぐオカと、それを結ぶ日常と非日常のミチを提案しました。詳細まで落ちず、詰め（きれ）なかったのが反省です…先生方にご迷惑ばかりおかけしてしまいました。

### 在郷でおりなす まち庭



B4 柴田 純花

福井平野の在郷町だった東郷で、農を介した居場所（＝まち庭）を生むことによって、新たな在郷のまちを提案しました。悩み続けた1年でしたが、導き励まして下さった先生方、支えて頂いた皆様のお陰で、故郷の福井について自分なりに思いを巡らすことができました。有難うございました。

### オンコ-トシン —築地川掘割空間の再生—



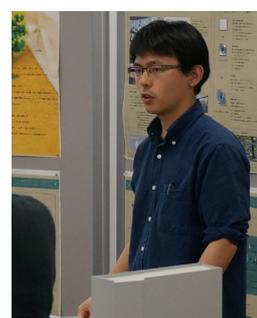
空間計画研 B4 中島 健太郎  
銀座の東を通る都心環状線の築地川掘割区間について、高速道路の更新と一体化した都市再生の提案を行いました。自分でテーマを設定して設計する経験は人生で初めてであり、本当に大変でした。発表を終えて達成感よりは課題ばかりを感じましたが、この気持ちを次に生かしたいです。

### 神田における老舗集積の立地要因と役割 —旧連雀町・佐柄木町地域の老舗分析から—



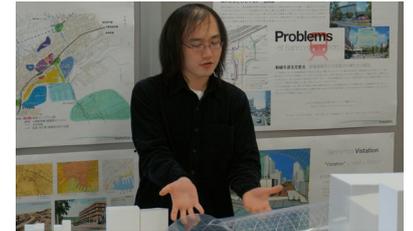
B4 羽野 明帆  
卒論では、神田老舗の社会関係についてようやく仮説を立てた段階です。当初こだわっていたテーマを諦めるなど自分の力不足に悔いも残りましたが、発表では内容も思いも伝えられたと思います。これから今回の仮説の分析も含め、どう向き合っていくのか考えたいと思っています。

### 小さな偶然が見える“ぐるり”を変えていく —大都市における不可避な対話の方法の提案—



B4 益邑 明伸  
都市での人の繋がりへの薄さは心地よい一方で危機感を感じている。村落的コミュニティの変形ではない人を結びつける方法を模索しようとしたが、概念レベルで足踏みすぎ空間のブラッシュアップが不十分だった。ご指導、お手伝い、激励して頂いた方々には本当に感謝しています。

### Sannomiya Vistation



B4 滝澤 暢之

中心市街地が東へと移ってきた神戸の現在の事実上の中心駅・三ノ宮駅とその周辺を、街の玄関口にふさわしい空間へと生まれ変わらせようというテーマでした。膨大な要素を織り込まねばならない駅空間の設計の難しさを実感できたことや、CADのスキルが身についたことは大きな収穫でした。

### まちの濁りに雑じる



B4 福永 友樹

僕は、東京の現代的な貧困問題と都市についての論文執筆のため分析を進めていたが、途中から形にして示すことを目指し、制作に変更することにしました。終始わがままな研究となりましたが、たくさんの方に手伝っていただきながらも製作を終わらせることができ、感謝しております。

## 卒業設計発表当日の様子



# "Road to Doctor"

## An Essay by Doctoral Student vol.8!

The Legacy of Mining Landscapes in Taiping, Perak, Malaysia

D2 Lee Yoke Lai

This article delineates part of research background to explore the heritage value and justify the meanings of mining cultural landscape in Taiping. Tin mining is the oldest industry and being the key economic pillar for Malaysia. In the mid-18th century, many small towns and port cities established during the tin rush glories. The industrial heritage has formed the Federated Malay States (FMS), the mining industry expansion has generated infrastructure and transportation development as well as the plural society formation in Malaya during British colonisation. The immense changes of tin industries transformed Perak state including Taiping to become the most progressive development in the political, social and economic facets. Therefore, it is essential to discuss the heritage significance of mining landscape and the historical attributes instinct to the characteristics of Taiping.

Certainly, Taiping inheritance manifested the rich tin mines in Larut district, operated as the British administration in Perak and also retained the first planned town initiated by the 33 of the 'many firsts' in Malay states. Taiping was named after the 'everlasting peace' and possessed the history of the mining industry, the everyday life patrons, historical townscape laid by the old shophouses, colonial

人数の多い都市デザイン研究室。よりお互いの研究について知る機会を作ろう！ということで、博士課程のメンバーの研究内容に迫るコーナーです。第8回目はD2のリー ヨクライさんです。

structures, distinctive colonial landscapes, Lake Gardens, and the Maxwell Hill. However, Taiping confronting the ad-hoc development and the built heritage degradations such as the first built railway line connected Taiping to Port Weld to transport mines and commodities were gone and replaced by roads and residential. It is argued, the drastically changes the mining landscape was endangered if no action taken in heritage safeguarding. In short, the implications of Taiping's heritage landscapes conservation enact to sustain heritage significant, socio-economic entities and community well-being in future.



▲ (Left) The first railroad (8 ¼ miles long) connected Port Weld and Taiping for tin shipping  
(Right) Port Weld renamed as Kuala Sepetang changed to become a fishing village



## 佐原 PJ 地元高校生とヒアリング調査！ Hearing Survey in Collaboration with Sawara High School!

佐原 PJ は県立佐原高等学校の生徒有志と連携。昨年度から実施してきた「まちなかの記憶調査」を発展させ、高校生にまちなかの記憶や楽しみ方を知ってもらうことを目標にヒアリング調査に取り組んでいます。

空間計画研 M1 中野 卓

佐原 PJ では、昨年の 12 月に佐原高校で高校生へのヒアリング調査を実施しました。その際の交流を契機として、高校生の有志 14 名によって「佐原高校まちづくりプロジェクトチーム」が発足し、今年 1 月から高校生側とまちづくりミーティングを重ねてきました。

その合同プロジェクトの一環として、「佐原の生きている記憶をアーカイブする」ことを目的としたヒアリング調査をすることになり、2月28日(金)に高校生とまちなかで第1回目の調査を行いました。高校生にとって初めての調査となる今回は「通学路と道草」「学生時代のデートコース」といったテーマを設定し、大学生がノウハウを指導しながら、まちの方々からお話を伺いました。調査の中で、佐原のまちなかに隠れた江戸時代の木戸や貴重な雛人形などを拝見する機会を得て、高校生とともに非常に興奮した時間を過ごしました。

今後は高校生側とともに、もうすぐ改修工事の完了する旧飯田家の活用について具体的なアイデアの検討に入っていきます。またこうした活動の記録は佐原高校 HP (<http://cms2.chiba-c.ed.jp/sawara-h/>) にも掲載されているので、ぜひご覧下さい。



▲福新呉服店のおかみさんへのヒアリング



▲町並み交流館でもお話を伺いました



▲調査後のまとめミーティングの様子

3月の予定

Information

3月17日～19日 大槌 PJ 三重・和歌山調査  
3月24日 学位記授与式 / 追出しコンパ  
3月25日 学部生 卒業式

### ✧ 編集後記

越村 高至

ここ最近旅行していたのですが、広場や川岸のベンチで本を読んだり編み物をしている人を見て、きっとお気に入りの場所なのだろうなと羨ましく感じる事が何度かありました。そういえばプロジェクトで関わらせて頂いたまちでも、同じような感覚を覚えたことが何度もあったような…。帰りの飛行機の中、自分も地元(川崎市)をもっと知ってみたいと思うのでありました。(完全に余談ですが、飛行機を降りて家までの間、やはり成田は全然東京ではないとも思いました。)